

教材 No.18 思いを込めたプレゼント

<対象> 小学校高学年～中学校

<関連する教科等>

- ・道徳：相互理解、寛容 / 思いやり、感謝 / 友情、信頼
- ・特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成 など

<教材制作の意図>

学校は多様な価値観をもつ人たちが集まる場であり、その中で子どもたちは互いの考え方や感じ方の違いに気づきながら学んでいくものである。しかし、価値観の違いによって、子どもたちが人間関係における悩みを抱えてしまうこともあるだろう。もちろん、こうした悩みと向き合いながら人は成長していくものであるが、いざこざが「いじめの種」となりうるようなことがないよう、指導や支援には留意していきたいものである。

中でも「お金」についての価値観は家庭や経験によって差が生じやすく、日常の中で話題にしにくいテーマでもある（大人でも同様であろう）。一般的に、小学校高学年や中学生以降になると自分でお金を使う機会が増えることが多いと思われるが、多感な時期だからこそ、無自覚にそれ違うようなこともあるだろう。他方で、「お金」に関するトラブルを取り上げる教材は多くないと思われる。

本教材では、お世話になった部活動の顧問に感謝の気持ちを込めてプレゼントを贈ろうとする中学生たちの姿を描いている。その1人であるアサトは、友人たちが提案するプレゼントの金額の高さに戸惑いを覚えるが、気まずさから自分の思いを言い出せずにいる。アサトにとっては初めて直面する葛藤であり、他の生徒たちにとっては「問題であることにすら気づかない」まま進行してしまう些細な話となっている。

本教材をとおして、そもそも自分と他者に価値観の違いがあるということを子どもたちが理解し、相手の立場を尊重しながら人間関係を築いていく力を育むことをねらいとした。「お金」という普段は触れにくいテーマだからこそ、授業という安心できる場で言葉にし、対話を重ねることで、互いを理解しあうきっかけをつくることができると考えている。

<話し合いのポイント>

子どもたちの意見について、共感的に聞いたり、発言の意図をていねいに確認したり、それぞれの考えの違いについてつっこんだりしてみてほしいです。

その際、次のような点についておさえておくと、やりとりが深まると思われます。

- ・ アサトはなぜ自分の悩みを言い出せないのであろうか。お金が関わるからだろうか。思いを込めたプレゼントだからこそ、言い出せないということもあるだろうか。他にも理由があるのであろうか。
- ・ コウタロウとユウジは、絆を深めたはずのアサトの悩みに気づいていない。それは、なぜだろうか。
- ・ お金に関する価値観を話題にしづらいのは、なぜだろうか。

- このお話では、アサトは困っている。この事例は「いじめ」と言えるだろうか。あるいは、「いじめ」につながりうるだろうか。

<授業プラン> (40~50分)

活動内容	補足・留意点等
<p>■導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回学習するテーマについて想像をふくらませる。 <ul style="list-style-type: none"> ○○に△△円払うのは高いか、安いか。お金のことで誰かと揉めたことはあるか。家のお金のことを話題にしづらいことがあるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの時間を確保するために、導入の話に時間をかけすぎず、早めに教材の視聴に入れるとよい。
<p>■マンガ教材の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材「思いを込めたプレゼント」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> 視聴後、小グループで感想を話し合う。何名かに発表をしてもらう。 内容が伝わりづらかったようであれば、アサトが何に困っているか確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想をざっくばらんに話し合ったり発表したりすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくりたい。
<p>■マンガ教材の問題点について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ストーリーを追いながら、登場人物の気持ちを想像する。 <ul style="list-style-type: none"> 思いを込めたプレゼントを贈ろうという話になったとき、3人はどんな思いだっただろうか。 プレゼントの金額を話しているとき、アサトはどういうな思いだっただろうか。 アサトはなぜ、母親に相談できなかったのだろうか。 アサトは2人に悩みを言うタイミングもあったはずだが、なぜ言い出せなかつたのだろうか。 コウタロウヒュウジは、アサトの悩みに気づいているだろうか。 最後の場面のアサトさんの心の声や表情に注目しよう。 <ul style="list-style-type: none"> どうしてアサトの悩みが深まってしまったのだろうか。 あなたがアサトなら、このあとどうしますか。アサトの思いをふまえて考えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業スタイルによって、様々な話し合いの仕方を採用して構わない。ペアで話してから全体で共有する、まずはノートに書かせる、思考ツールを活用する、等。 できるだけ、一人一人がたくさん話すことができ、たくさんの意見を聞き合えるとよい。問題に対して、様々な見方・考え方があることが知れるとよい。 低学年で実施する際には、伝わりやすい言葉にすることを検討する。
<p>■自分やクラスの問題として考える</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ここまでマンガの問題について考えてきました。もしかしたら、こうした問題が現実に自分やクラスの中で起こってしまうことがあるかもしれません。みんなで楽しい気持ちでいるために、自分や友人グループ、クラスなどできること・気をつけたいことはあるでしょうか？（起こってしまったときに、何ができるでしょうか） <ul style="list-style-type: none"> 人に言い出せない悩みを抱えている人もいると意識する、お金に関することを決めるときは気をつける、思いを込めたプレゼントだからといって無理強いはしない、言いたくないことほど打ち明けられるような関係になりたい、等。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記「話し合いのポイント」を参考に、話し合いの方向性を想定しつつ、自由に話を広げていけるとよい。 多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為を肯定するような意見（いじめられる方が悪い、いじめられても仕方ない等）に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらうよう留意する。（「傷つく人が少しでもいなくなるように、何ができるか知恵を出し合いたい」という思いを伝えていきたい） 自分のこととして考えたり、自分たちクラスのこととして考えたり、発想を広げていけるとよい。
<p>■ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の授業のふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> これから学校生活や、友達とのコミュニケーションに今日学んだことを活かしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに書く、何名かには発表をさせる、等。考えたり話し合ったりしたいことを言葉でていねいにまとめられるとよい。

（参考）ウェブサイト記載「授業を行う先生へ」

- 本教材シリーズでは、善悪がはっきりしない状況や、つい見落とされがちな問題を積極的に取り上げ、リアリティのある物語として描いています。本教材をとおして、一人一人がいじめゲームのルールを変えるチェンジャーズとなっていってほしいという願いのもと制作をいたしました。
- 教材を見れば、子どもたちからは何か言いたいことが出てくるはずです。子どもたちによる話し合いを中心に授業を進めてください。話し合いの時間をできるだけ多くとれるように、短めの尺の中で問題点を具体的に描いています。すぐに答えが出ないような難問についてねばりづよく話し合いながら、他者への想像力を養っていってほしいです。
- 授業中は、子どもの話を丁寧に聞いたり、もやもやに共感したりする時間を大切にしてほしいです。「こうすべき」という結論を急がず、本音が出されることや、多様な意見が出されること、少数派の意見を丁寧に聞くことなどを大事にしてほしいです。
- オープンエンドで終わることを想定していますが、「本時では多様な考えが出されてよかった」というだけではなく、「これから自分（たち）には何ができるだろうか」と今後の生活につながるような終末を目指したいと考えています。授業時間内に1つの結論を出す必要はなく、これからチェンジャーズになるためのきっかけを掴んでもらいたいと思っています。
- モデル指導案を掲載しておりますが、クラスや子どもたちの実態に合わせ話し合いが深まるよう、自由に柔軟に授業を展開してください。1つの教材の中に、複数の問題が描かれており、主人公以外の視点から議論をすることが可能な教材もあります。道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科等でご活用いただければ幸いです。